この発着点で周囲の確認をして試験車に乗車します。運転姿勢を合わせて、エンジンをかけたら「発進の準備ができました」といいましょう。試験官をイライラさせないよう、機敏な動作で準備することも大事な受験テクニックのひとつなのです。

右前方からコースへ出る際に「止まれ」の標識があります。斜めに進行すると適切な停止位置が判断しにくくなるので、直角に右折して停止線とバンパーが平行になるように停止しましょう。

停止位置で停止して交差道路を確認すると、右方向は見通しの悪い交差点です。正面のロードミラーで、優先車が接近していないかどうか確かめましょう。

停止位置で停止して交差道路を確認すると、右方向は見通しのきかない交差点です。このような交差点には必ずロードミラーが有ります。正面のロードミラーで、優先車が接近していないかどうか確かめましょう。

見通しの悪い交差点には必ずロードミラーがあります。ロードミラーは、凸面鏡のため、広い範囲が見えていますが小さく見えます。何度もよく見えて、少しでも車が見えたら動かずに待ちましょう。

停止線で停止したら、A、B、D コースの場合は信号機のある交差点に向かって直進するため、少し右寄りに停止します。
C コースの場合は左折をするので、左側端に寄せて停止しましょう。

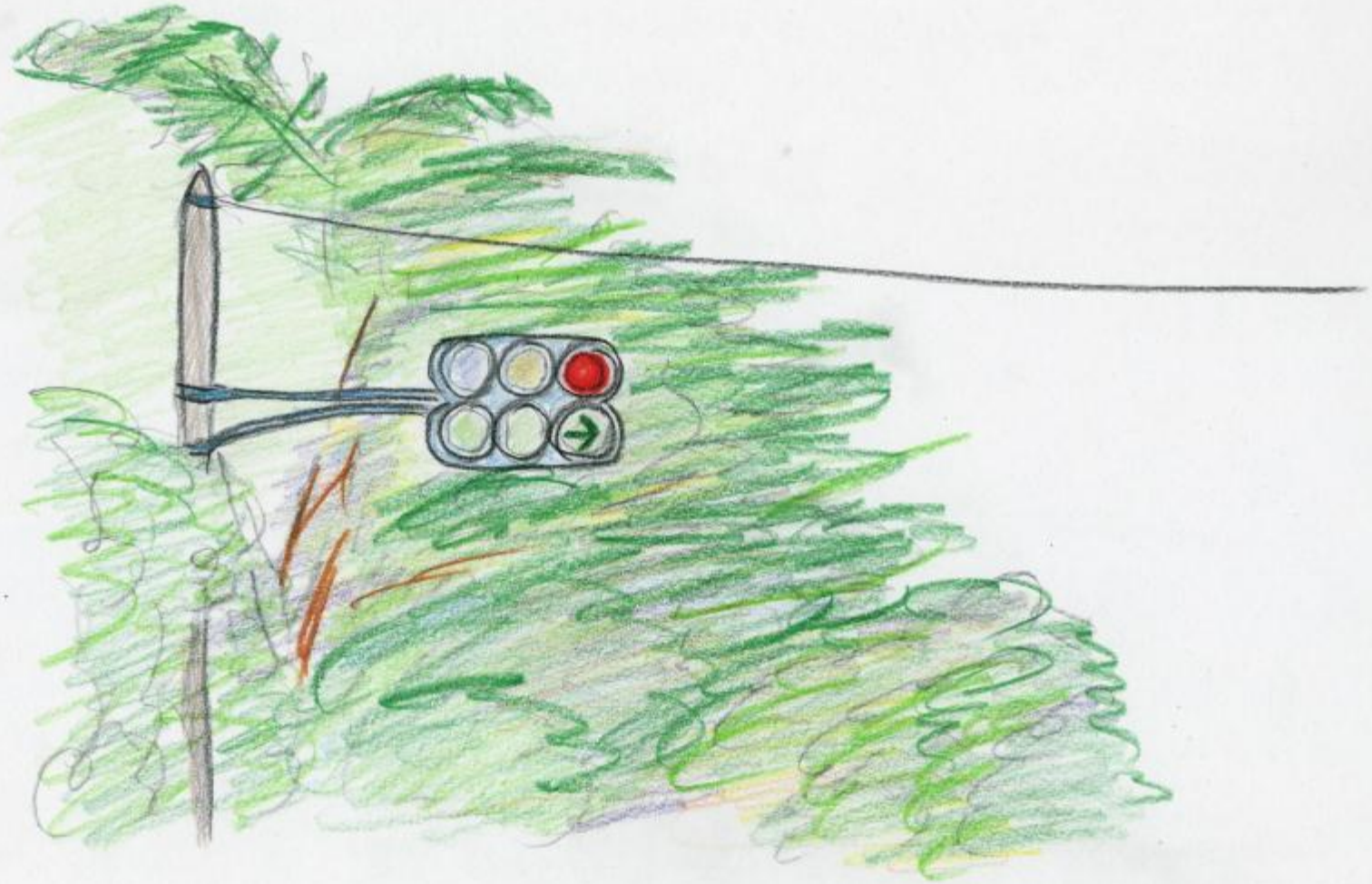
外周は片側２車線の道路になっています。左車線の第一通行帯を走行しましょう。

片側２車線の道路で障害物があるときは、すぐに第２通行帯へ車線変更しましょう。安全な側方間隔が取れるときは、徐行する必要はありません。

速度指定区間では、指定された速度（50km/h）で走行し、指定区間外では、状況に応じて機敏な走行をしましょう。
左側にパイロンのある外周は、左により過ぎないよう！

路端がはっきりしていません。信号を左折するときは、左のアスファルトの切れ目に沿って進み、交差点のすみ切りを早く確認しましょう。信号を右折するＤコースは道路標示をよく見て、早めに右車線へ車線変更をしてください。

この交差点は、矢印信号（赤色の灯火と青色の矢印）だけを表示して、青信号を表示しない信号機です。矢印信号であることを見落として、青信号になるのを待っていると、他の交通に迷惑をかけるばかりでなく、後続車に追突されるおそれがあります。信号機の種類と意味を良く確かめましょう。



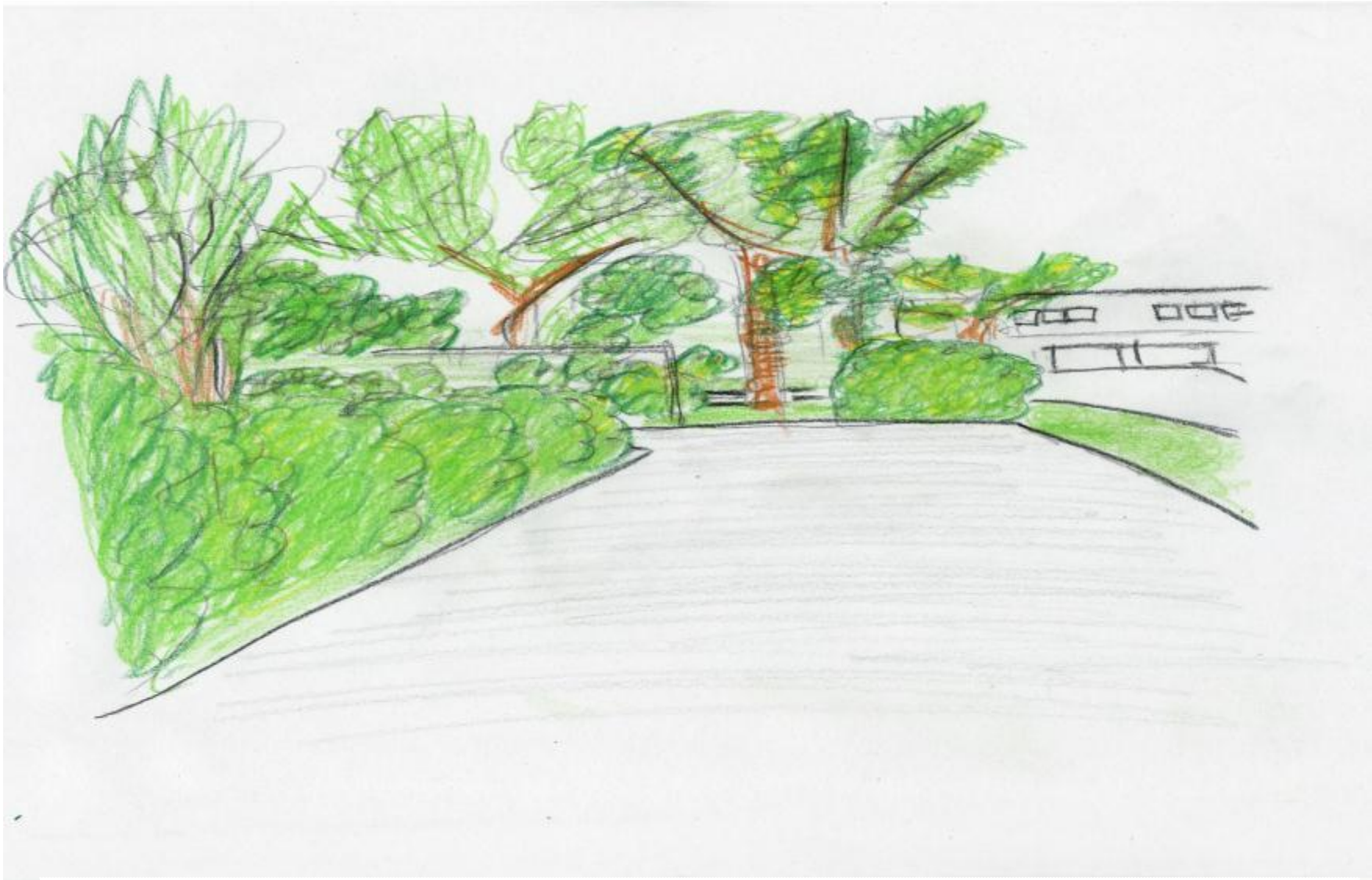
右に矢印の出る信号は、短時間でその表示が消えてしまいます。視線を上げて、遠くから何度も信号を見て、変わり目を予測しながら接近してください。黄色信号になったときに、停止するか、通過するか迷う範囲（ジレンマゾーン）は、ブレーキの構えなどで特に注意が必要です。

周回道路に出る交差点では、どこも植込みがあり、見通しの悪い交差点になっています。注意という表示のあるロードミラーを活用して安全を確認しましょう。

内周は一車線で道幅が広いのでやや左寄り（キープレフト）走行をしましょう。長い直線では５０㎞の指示速度が課題になっています。左側から車が出てきそうなときは、ブレーキの構え等で注意してください。

幹線道路の交差点には、手前と、先に２つの同じ番号板が有る場合があります。番号板が２つ並んでいたらその真ん中を右左折しましょう。

コースの番号板は、黄色が交差点を、白色が狭路の入口を示しています。左折する場合は番号板を過ぎてから、右折は場合板の手前を曲がります。（幹線道路の交差点には、交差点の手前と先に２つの番号板がありますので、その真ん中を右左折します）白い番号板を左折するときは、あまり左に寄りすぎないように注意しましょう。（赤は大型用）



クランク型の狭路コースは、早くその形状をとらえ、進路をイメージしましょう。第１コーナーまでの距離が長いので、道幅をいっぱいに利用することも簡単です。

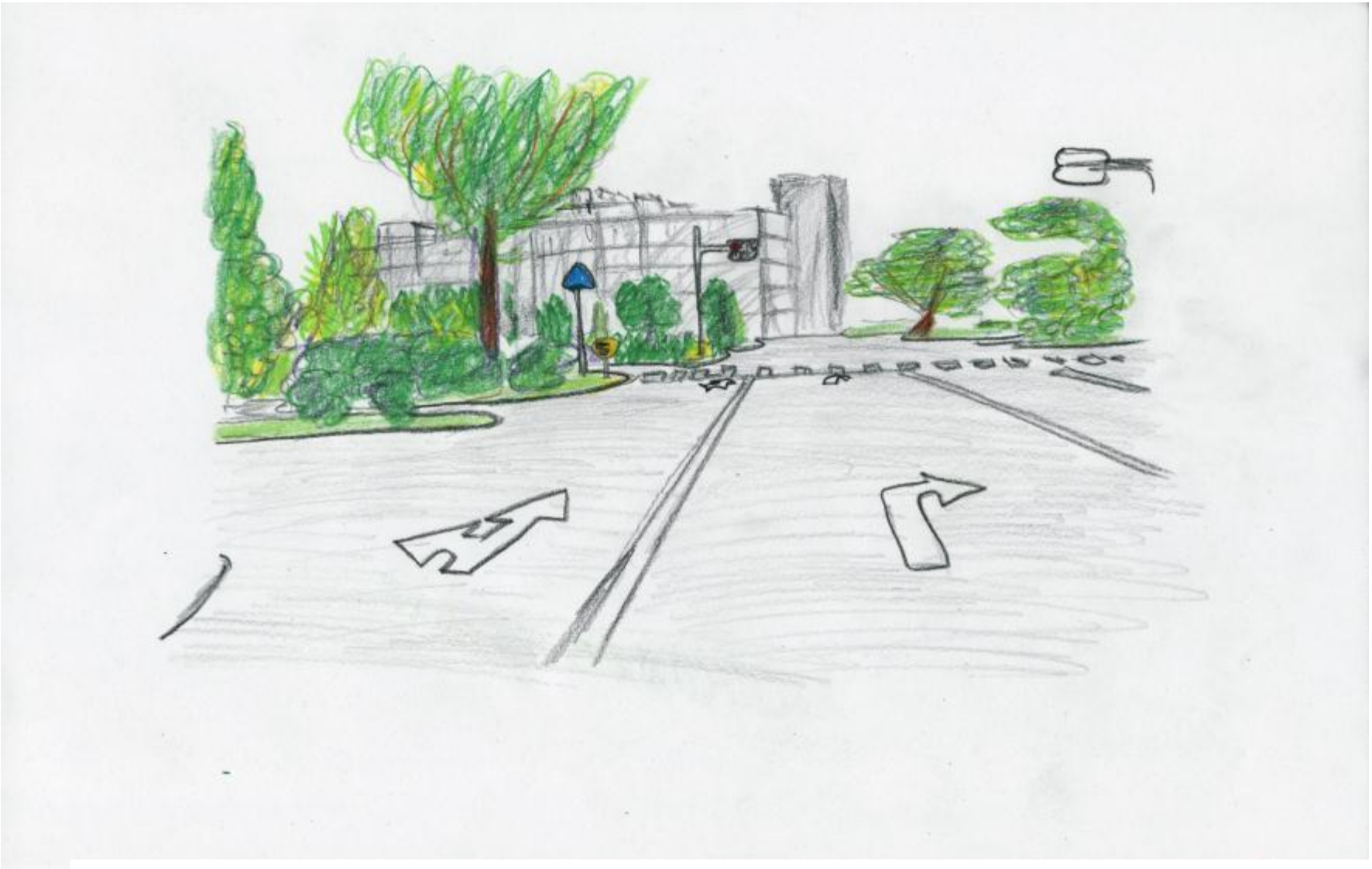
白色の番号板は狭路の入口を示しています。左折する場合は番号板を過ぎてから、右折は番号板の手前を曲がります。
白い番号板を左折するときは、あまり左に寄りすぎると脱輪してしまいます。寄りすぎないように注意しましょう。

⑭番の狭路を右折で出ると、すぐに障害物があります。走行ラインをイメージして円滑に通過しましょう。
はじめから安全な側方間隔が取れた位置、且つ、対向車線にはみ出す量もなるべく少なくなっていなければいけません。

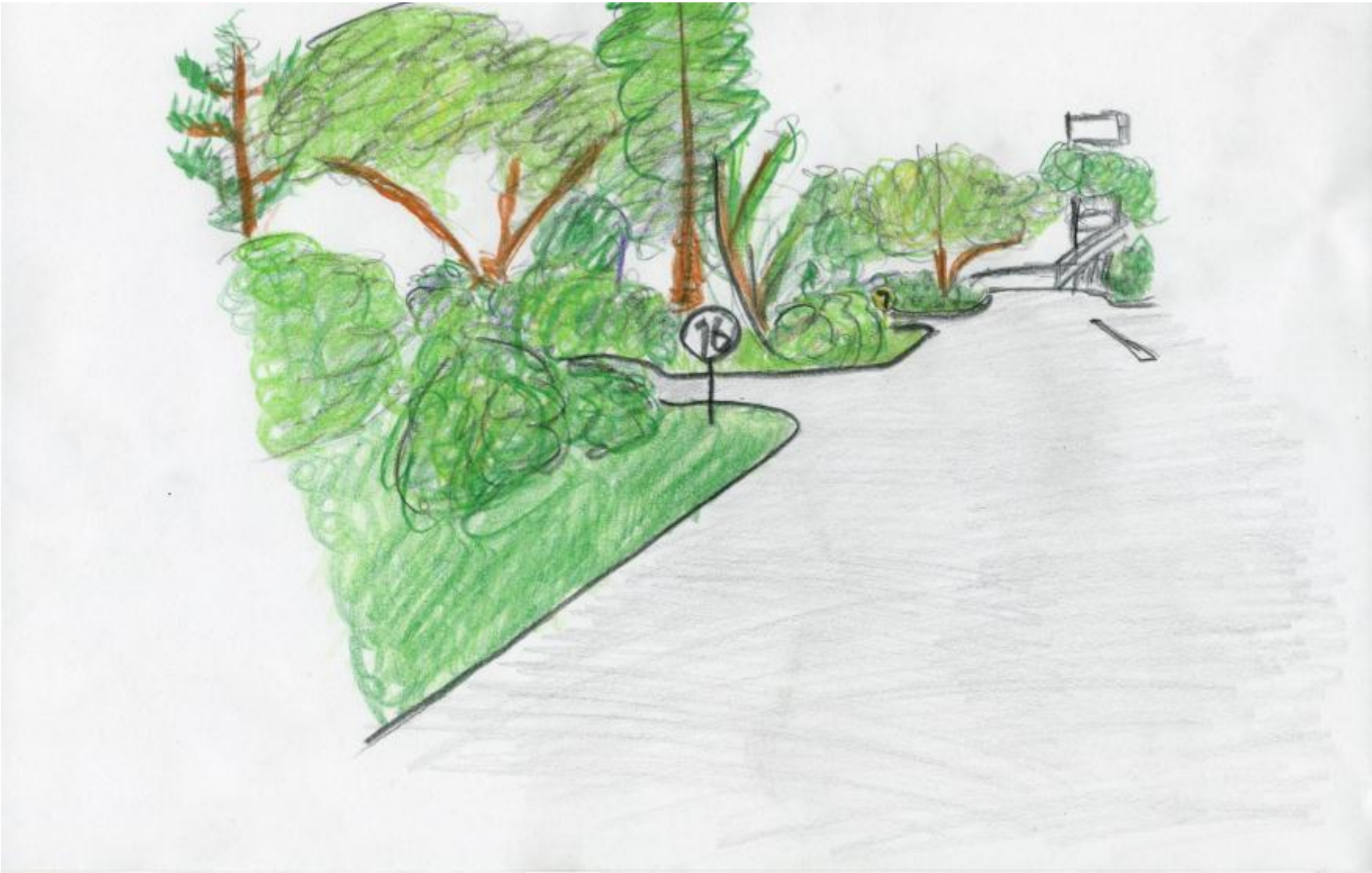
道幅が同じで、交差点内にセンターラインが引かれていない場合は左方優先の道路です。左から来る車の進路を妨害しないようにしましょう。

踏み切りを見落とさないようにしましょう。踏み切りの３原則である、止まる・見る・聞く を確実に行い、やや中央寄りをすみやかに通過しましょう。

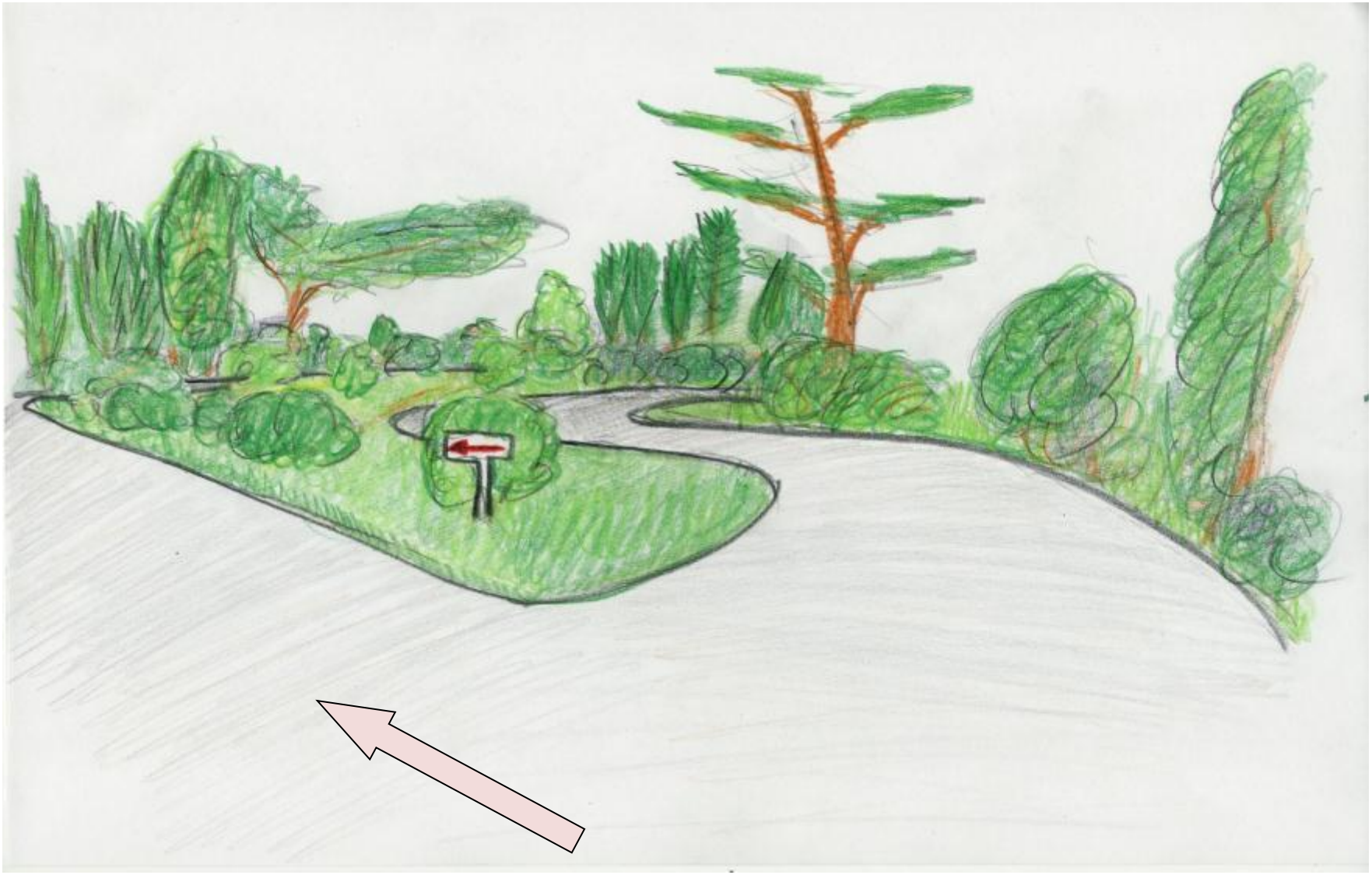
周回道路のセンターラインは二重線になっています。外周から右折するときは、第二通行帯の二重線のセンターラインに寄せましょう。右折して外周に出たときは、一番左の第一通行帯車線に入らなければいけません。どこを通って、どこに車を持っていくのかを、視野を広く、早く確かめてください。



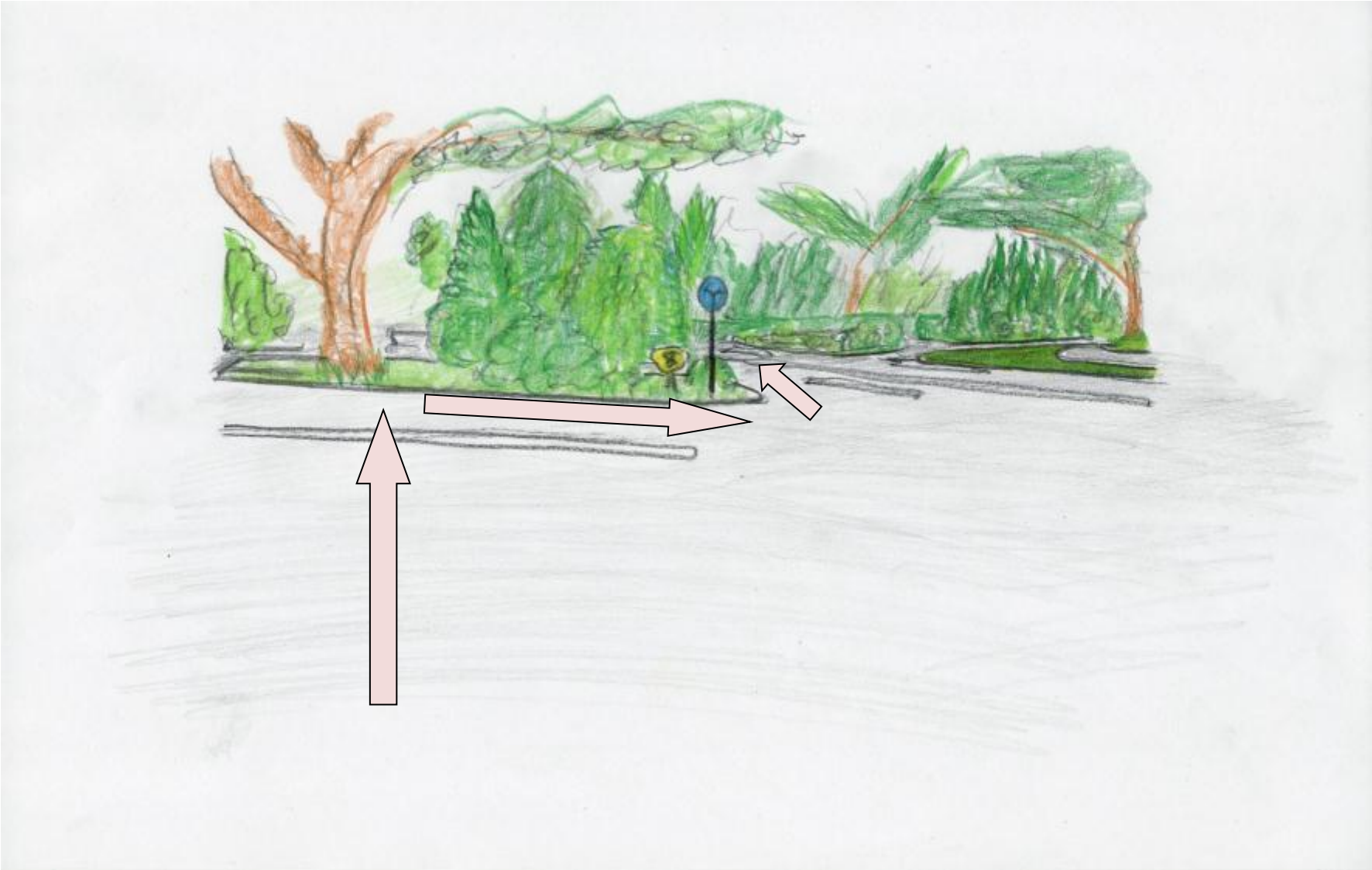
進行方向別通行区分です。標識・標示の意味と種類を覚えて、正しい認知、判断ができるようになりましょう。
遠くから何度も標識・標示を確認して、正しい走行位置が選択できるように習慣をつけてください。



白い番号板１６番は、Ｓ型コースです。左折すると三又に道が分かれています。普通１種は赤い矢印方向へ進んでください。
狭路に左折で入る場合でも巻き込み事故を防止するために１メートル以内に左側端に寄せましょう。寄りすぎ注意。



S 型コース等に入って赤い矢印板が有る場合は普通一種は赤い矢印方向へ進んでください。



狭路を出て、右折後すぐに左折をする場合は、前方の縁石がボンネットに隠れるくらいまで前に進んでから右折し、
すみ切りに沿って小回りしましょう。左折は左側端に寄せてスミキリに合わせた小回りが必要です。

逆三角形が二つ並んだ道路標示は、前方の交差点が優先であることを表しています。手前から何度も左右の安全確認をし、優先車の妨害をしないようにしましょう。見通しが悪いときは、ロードミラーを活用しましょう。右にあるミラーは左を向いているので、左側から来る車を、左にあるミラーは右側を向いているので、右側から進行してくる車を確認できます。

優先道路を横断すると、その先には障害物があります。障害物の側方を通過するときには、必要以上に間隔をあけて右側通行にならないように注意しましょう。不動物の側方通過は 50 センチ以上、なるべく右にはみ出す量を少なく。

坂道です。上り坂も、下り坂もＳ型になっていますので内輪差に注意が必要です。停止したら後退しないように坂道発進を行います。頂上は十字路の交差点になっていますので、徐行して交差道路の安全確認が必要です。

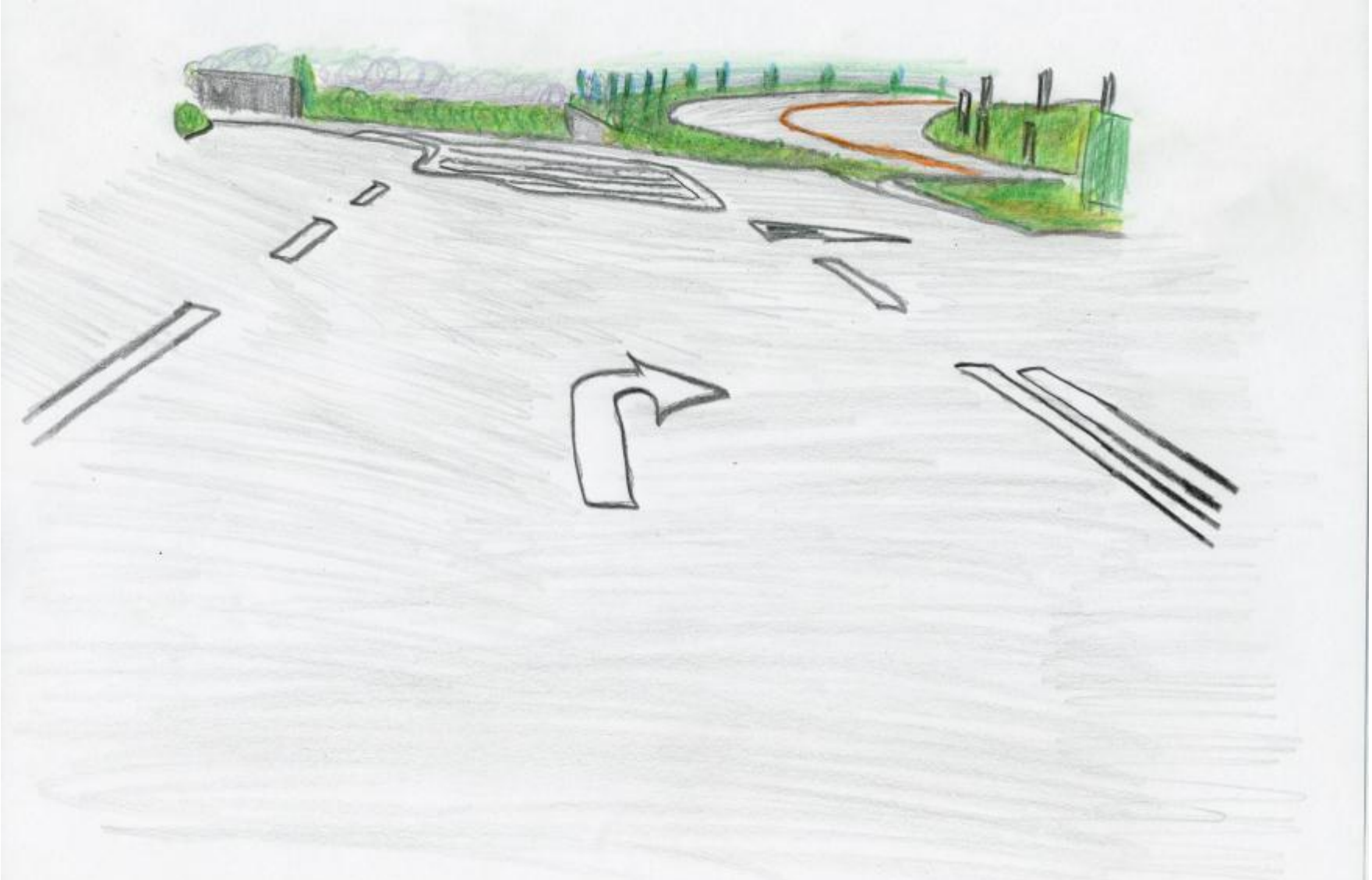
右折で坂を上るコース。カーブでは内輪差を意識し、後輪が左側端の縁石にぶつからないように、右のセンターラインを踏まないように大回りをしましょう。

どちらから坂道を登っても、坂の下は止まれの標識があります。右折するときは、導流帯を踏まないように、交差点の中心の表示の直近の内側を通過するように曲がり、第一通行帯に進みましょう。

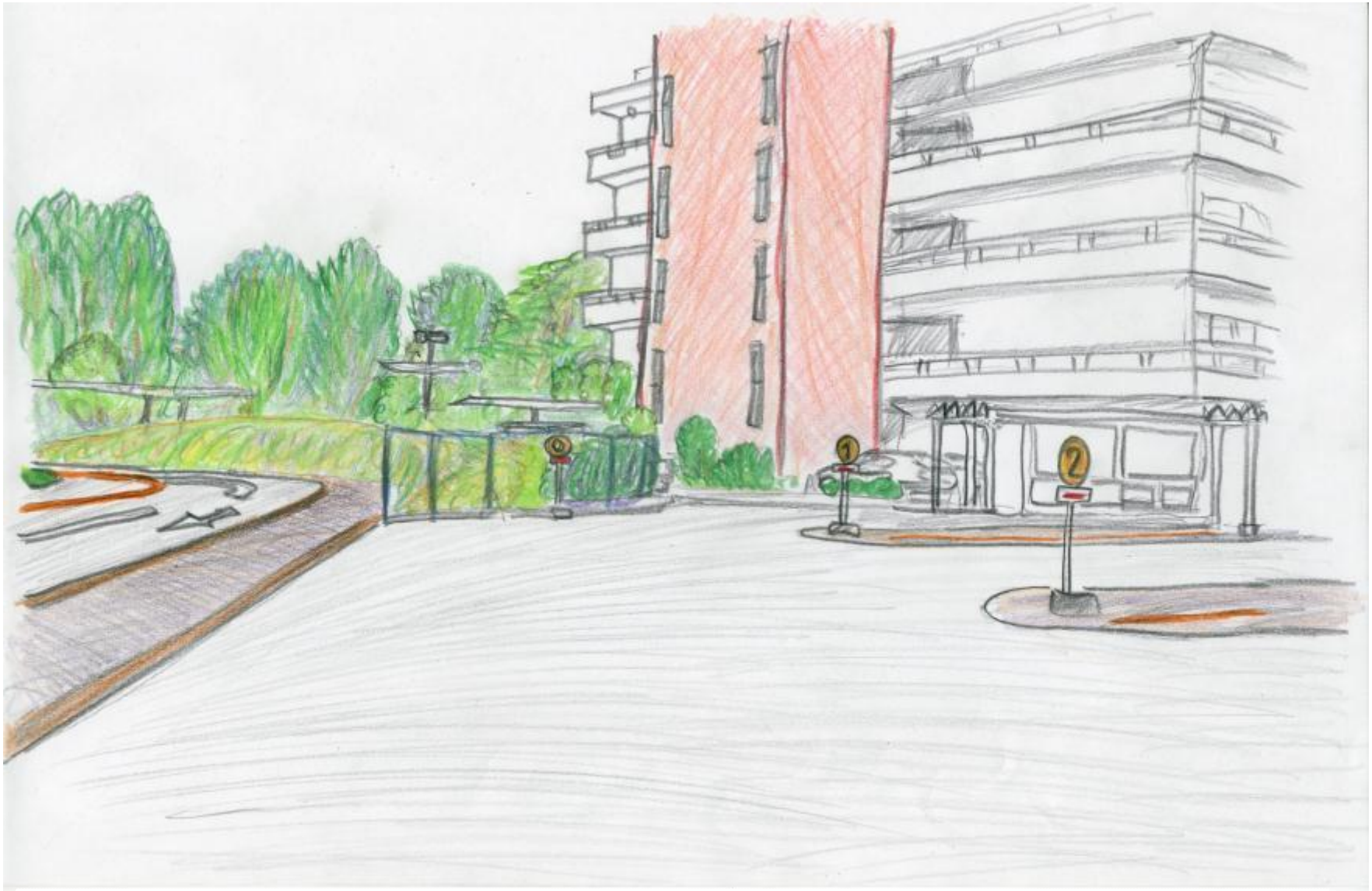
赤い点滅の信号は、停止位置で一時停止し、安全を確認した後に進むことができます。停止線の手前で確実に停止し、右、左、右と一方向１秒の確認をしてください。

赤い点滅の信号の交差点は、見通しの悪い交差点です。停止線で止まっても右側から来る優先車を確認する事ができません。
この位置で右、左、右と見える範囲を安全確認してからもう一度少し前へ出て安全確認をしましょう。

赤い点滅の信号の交差点は、見通しの悪い交差点です。停止線で止まって確認した後、もう一度、身を乗り出して交差点の安全が確認できる位置で停止しましょう。前に出過ぎてしまうと危険ですので注意しましょう。



交差点の右折はできるだけ中央線に寄せて、交差点の中心のマークや進路をしっかりイメージして、正しい走行位置で右折ができるようにしましょう。



一番奥の０番を右折して、ポール付けをして試験は終了です。

指示されたポールに合わせて停止の手順で停止します。左側端から 30 センチ以内、ポールと自車のバンパーが揃うように。車から離れるときの措置、車から降りる時の周囲の安全確認も重要です。ドアを閉め終わるまでは試験の採点範囲です。